

# 建設業の今を伝えるために

一般財団法人  
経済広報センター  
常務理事・国内広報部長  
佐桑 徹  
Toru Sakuma



## 表彰される建設業広報

経済広報センターは毎年、優れた企業広報を  
実践している企業、経営者、実務家を表彰する  
「企業広報賞」を実施している。

建設業に関連する多くの企業が、これまでも  
表彰されている。

最近では、二〇一四年に森ビルが企業広報大  
賞。二〇〇九年には企業広報経営者賞に大和ハ  
ウス工業の樋口武男執行役社長。二〇〇七年に  
は企業広報大賞に三井不動産が受賞された。

古くなるが一九九九年には大成建設の山下健  
広報部長が功労・奨励賞を受賞。このように、  
コンスタントに受賞されている。

えて「そんな業界の常識だよ。今も変わらな  
いんじゃないか」とテレビで話をする、世の  
中はみな、それを信じてしまう。会社を辞めた  
人たちにも「企業の今の姿」を知ってもらうこ  
とは必要だ。

また、「等身大の姿」を知ってもらうには、  
「普通の姿」を実際に見てもらうことが重要だ。  
マスコミが報道するのは、何かあった時、つ  
まり「非日常」である。産業の現場の「日常」  
の姿はなかなか報じられない。

## 見るとワクワクする建設現場

経済広報センターには、約四、〇〇〇人のモ  
ニター会員（社会広聴会員）がいる。当センタ  
ーは年に八回、モニター会員が企業の現場や施  
設を訪問し、企業関係者と質疑応答や意見交換  
を行う会合を全国で設けている。

二〇一四年十一月には、「鹿島建設のモノづ  
くり、よみがえった白鷺、国宝姫路城」とのテ  
ーマで、鹿島建設の国宝姫路城大天守保存修理  
工事施工現場をモニター会員約二〇人が訪問。  
「自分の仕事が残世に残るのは、建設や土木の  
世界で仕事をする人の特権だと感じた」「地面  
を傷つけることなく素屋根を完成した最新技術

ただ、非常に目立ち、注目される業界だけに、  
何かあると大きく叩かれることになる。特にS  
NSの時代となり、その触れ幅が大きくなって  
いるといえる。

## 等身大の今の姿を伝える難しさ

企業が広報活動を行う目的のひとつに、「等  
身大の今の姿を知ってもらう」ことがある。し  
かし、これがなかなか難しい。

元々、ある業種に特化していた企業が、かな  
り多角化したり、元の分野から撤退したりして  
も、世の中の人たちのイメージは、元の商品の  
ままとすることもある。

例えば、三〇年前にニューヨークを訪れた人

と、それを使いこなす鹿島の『人の持つ力』に  
わくわくし、大変感動した」といった感想が数  
多く寄せられた。

二〇一三年三月には、「受け継がれる匠の技、  
ハイクオリティな空間創造に貢献する清水建設  
の木工技術」をテーマに清水建設東京木工場を  
訪問。二〇一二年五月には、戸田建設が施工中  
だった京都国立博物館平常展示館建設工事作  
業所、二〇一一年十一月には、「社会の持続的発展  
に貢献する建設技術」をテーマに大成建設の大  
成札幌ビル、二〇一〇年九月には、「人と自然を  
結ぶ建設技術」をテーマに神奈川県横浜市の大  
成建設技術センター、二〇一〇年五月には、「丸  
の内の街づくり」をテーマに新丸ビル（三菱地  
所）、二〇〇九年十月には、大林組のスカイツリ  
ー建設現場、二〇〇三年十一月には、森ビルの  
六本木ヒルズを訪問した。

いずれも大人気で定員をはるかに超える申し  
込みがあった。人々を魅了するコンテンツには  
事欠かない。

個人的には、かなり古くなるが、日本土木工  
業協会にご協力いただいで、「一〇〇万人の市  
民現場見学会」の一環として、兵庫県の布引ダ  
ム（奥村組）、石井ダム建設現場（西松建設）を

は、新たな体験がなければ、ニューヨークがき  
れいになり治安もかなり良くなったことを知ら  
ず、ニューヨークは危険な街と思いつづけてい  
ることになる。これは企業イメージについても同  
様だろう。

実は、二〇〇五年八月の日本建設業団体連合  
会の広報委員会で、講演をさせていただいた。  
テーマは「危機管理広報」。そして、「退職者コ  
ミュニケーション」の話題にも触れさせていた  
だった。退職者は、一般の人からすると、その  
会社の内情に詳しいと思われる。しかし、  
退職してからの情報がないと、昔話をしてしま  
う。会社側が「そのようなことは今はない」と  
いくら力説しても、OBが顔を隠し、音声を変

訪問し、湛水する前のダムの底を歩いたことを  
今でもよく覚えている。

## 語り部をいかに増やすか

経済広報センターはまた、東工大、横浜国大、  
早大、慶大、同志社大、上智大等八大学で講座  
を開設しているが、今年度も鹿島建設、三菱地  
所、三井不動産、戸田建設の第一線で仕事をさ  
れている方々に講義いただいた。

特に戸田建設の佐藤郁氏は、浮体式海上風力  
発電の実証実験の責任者であるため、大学の講  
義だけでなく、当センターが後援している小中  
学校の教師向けセミナーでも、特に理科の教師  
に大人気だ。佐藤氏のような、自分の仕事や技  
術を生き活きと楽しそうに分かりやすく話せる  
「コミュニケーター」を増やすことが重要では  
ないか。

広報の世界では、社員全員が広報パーソンに  
なるべきだと言われて久しい。「けんせつ小町」  
キャンペーンに加え、建設業の語り部を増やす  
ことが、業界のイメージ向上につながるのでは  
ないか。建設業の今を伝えるためのツールのひ  
とつとして当センターをぜひ活用いただければ  
幸いである。